

■「草津市障害者計画（後期計画）」の進捗状況（期待を超える成果があった事業）

資料 3－2

区分	主な事業	担当課	H 2 6 事業実績	H 2 7 事業計画	H 2 7 事業実績	評価	評価理由	H 2 8 事業計画
継続	重度障害者個別支援体制強化事業の実施	障害福祉課	強度行動障害者の通所支援を行う生活介護事業所へ特別加算費を支給することで、当該事業所が適正な支援員の配置その他必要な措置を講じるための支援を行い、強度行動障害者の処遇改善を図りました。 ・対象事業所数 5箇所 ・対象者数 10人	強度行動障害者の通所支援を行う生活介護事業所へ特別加算費を支給することで、当該事業所が適正な支援員の配置その他必要な措置を講じるための支援を行い、強度行動障害者の処遇改善を図ります。なお、事業の評価を踏まえて今後の事業のあり方について検討していきます。 ・対象事業所数 5箇所 ・対象者数 13人	強度行動障害者の通所支援を行う生活介護事業所へ特別加算費を支給することで、当該事業所が適正な支援員の配置その他必要な措置を講じるための支援を行い、強度行動障害者の処遇改善を図りました。 ・対象事業所数 6箇所 ・対象者数 14人	◎	事業の実施により、強度行動障害者の処遇改善が図れました。また、県制度の見直しを踏まえ、3年を超えても継続して支援が必要な人には支援を継続できるよう市制度の見直しを行いました。	強度行動障害者の通所支援を行う生活介護事業所へ特別加算費を支給することで、当該事業所が適正な支援員の配置その他必要な措置を講じるための支援を行い、強度行動障害者の処遇改善を図ります。なお、県制度の見直しを踏まえ、3年を超えても継続して支援が必要な人には支援を継続できるよう市制度の見直しを行いました。 ・対象事業所数 5箇所 ・対象者数 11人
継続	乳幼児期から成人期までのライフステージ等を踏まえたチームアプローチによる包括支援と継続的なフォローアップ	発達支援センター	関係機関と連携しながら、乳幼児期から成人期までの相談支援に取り組みました。 ・年間相談者数 1,021人	関係機関と連携しながら、乳幼児期から成人期までの相談支援に取り組みます。 ・年間相談者数 1,180人	関係機関と連携しながら、乳幼児期から成人期までの相談支援に取り組みました。 ・年間相談者数 1,252人	◎	関係機関との連携を図り、乳幼児期から成人期までの多様なニーズに応えることができました。	関係機関と連携しながら、乳幼児期から成人期までの相談支援に取り組みます。 ・年間相談者数 1,289人
継続	5歳相談の実施	発達支援センター	保育所、幼稚園に在籍する満5歳の子ども保護者に対して、相談に応じ、スムーズな就学への移行を支援しました。 ・年間相談者数 56名	保育所、幼稚園に在籍する満5歳の子ども保護者に対して、相談に応じ、スムーズな就学への移行を支援します。 ・年間相談者数 56名	保育所、幼稚園に在籍する満5歳の子ども保護者に対して、相談に応じ、スムーズな就学への移行を支援しました。 ・年間相談者数 58名	◎	満5歳の子ども保護者に対して、小学校への移行に際しての相談に応じることでスムーズな就学へつなげることができました。	保育所、幼稚園に在籍する満5歳の子ども保護者に対して、相談に応じ、スムーズな就学への移行を支援します。 ・年間相談者数 60名
継続	児童生徒への相談・カウンセリングなど思春期対応の強化	学校教育課	○滋賀県スクールカウンセラー等活用事業不登校および集団不適應等の学校生活上の悩みや不安に対して、スクールカウンセラーによる教育相談を行いました。 ・相談件数 785件	○滋賀県スクールカウンセラー等活用事業不登校および集団不適應等の学校生活上の悩みや不安に対して、スクールカウンセラーによる教育相談を行います。 ・相談件数 700件	○滋賀県スクールカウンセラー等活用事業不登校および集団不適應等の学校生活上の悩みや不安に対して、スクールカウンセラーによる教育相談を行いました。 ・相談件数 773件	◎	平成26年度に比べ160件も保護者の相談件数が増えており、スクールカウンセラー等活用事業が生徒や保護者に浸透してきました。また、子育ての不安や悩みを保護者から聞くことで、子どもへの指導に活かすことができました。	○滋賀県スクールカウンセラー等活用事業不登校および集団不適應等の学校生活上の悩みや不安に対して、スクールカウンセラーによる教育相談を行います。 ・相談件数 700件
継続	本人・家族への教育相談・就学相談の充実	学校教育課	○夏6日間、秋1日間、就学にかかわる相談日を設定し、就学前だけでなく、在籍異動に伴う情報提供の場として就学相談を行いました。 ○特別支援学校および市内小中学校での学校見学などを実施し、就学前に学校の詳細な情報提供を行いました。	○夏6日間、秋1日の就学相談日を設定するとともに、就学指導委員会委員を増員することで、より多くの相談に対応できるようにします。 ○特別支援学校および市内小中学校での学校見学などを実施し、就学前に学校の詳細な情報提供を行います。	○夏6日間、秋1日の就学相談日を設定し、就学指導委員会委員を増員することで、就学前だけでなく、在籍異動に伴う情報提供の場として就学相談を行いました。 ・相談件数83件 ○特別支援学校および市内小中学校での学校見学などを実施し、就学前に学校の詳細な情報提供を行いました。	◎	平成26年度に比べ、相談件数が増えており、保護者や校園所の不安や悩みに対して情報提供を行うことで、スムーズな就学先の決定につながりました。	○夏7日間、秋1日の就学相談日を設定するとともに、就学指導委員会委員を増員することで、より多くの相談に対応できるようにします。 ○特別支援学校および市内小中学校での学校見学などを実施し、就学前に学校の詳細な情報提供を行います。
継続	発達障害のある子どもへの対応の強化	学校教育課	○特別支援教育に関わる市独自の支援員を小学校60名、中学校12名、合計72名配置しました。	○特別支援教育に関わる市独自の支援員を小学校60名、中学校12名、合計72名配置し、よりよい対応になるよう研修会を実施します。	○特別支援教育に関わる市独自の支援員を小学校60名、中学校12名、合計72名配置しました。	◎	個別の支援を充実することにより、学校で落ち着いて過ごせる児童生徒の増加につながりました。	○特別支援教育に関わる市独自の支援員を小学校60名、中学校12名、合計72名配置します。 ○インクルーシブ教育の推進のため、インクルーシブサポーターを小学校に3名配置します。
継続	ことばの教室や通級指導教室	学校教育課	就学前を対象にことばの教室1箇所、小中学校を対象に通級指導教室5箇所設置し、要望に応じて通級指導や巡回相談を実施しました。	就学前児童を対象にことばの教室1箇所、小中学校児童生徒を対象に通級指導教室5箇所設置し、要望に応じて通級指導や巡回相談を実施します。	就学前児童を対象にことばの教室1箇所、小中学校児童生徒を対象に通級指導教室5箇所設置し、要望に応じて通級指導や巡回相談を実施しました。	◎	○要望に応じて通級指導、教育相談、検査等を実施し、児童生徒の学校生活や学習支援に生かしました。 ○ことばの教室1か所 ・教育相談・通級指導件数 128件 ○通級指導教室小中5か所 ・教育相談・検査・通級指導件数 315件	就学前児童を対象にことばの教室2箇所、小中学校児童生徒を対象に通級指導教室5箇所設置し、要望に応じて通級指導や巡回相談を実施します。
継続	個別支援計画による支援	発達支援センター	ライフステージにわたって適切な支援が継続されるよう個別の支援計画の引継ぎを促しました。 ・就学前⇒小 87件 ・小 ⇒中 73件 ・中 ⇒高、支援学校 44件	ライフステージにわたって適切な支援が継続されるよう個別の支援計画の作成と引き継ぎを促します。	ライフステージにわたって適切な支援が継続されるよう個別の支援計画の作成と引き継ぎを促しました。 ・就学前⇒小 86件 ・小 ⇒中 96件 ・中 ⇒高、支援学校 56件	◎	小学校から中学校、中学校から進学先への引継ぎを促すことができました。	ライフステージにわたって適切な支援が継続されるよう個別の支援計画の作成と引き継ぎを促します。
継続	発達支援センターによる、教職員等へのスーパービジョンの提供	発達支援センター	保幼連携、学校連携で相談支援および指導方法の検討を行いました。 ・保幼連携 延べ642件 ・学校連携 延べ208件	依頼や要請に応じて、保幼連携・学校連携で相談支援および指導方法の検討を行います。	依頼や要請に応じて、保幼連携・学校連携で相談支援および指導方法の検討を行いました。 ・保幼連携 延べ686件 ・学校連携 延べ308件	◎	保幼連携、学校連携で相談支援および指導方法の検討ができました。	依頼や要請に応じて、保幼連携・学校連携で相談支援および指導方法の検討を行います。 ・保幼連携 延べ 680件 ・学校連携 延べ 300件

継続	就労移行支援事業所等の支援	障害福祉課	企業等で働くこと（一般就労）を希望する人に対し、一定の期間における生産活動やその他の活動の機会の提供、知識や能力の向上のための訓練を行いました。 ・利用者数 就労移行支援36人	企業等で働くこと（一般就労）を希望する人に対し、一定の期間における生産活動やその他の活動の機会の提供、知識や能力の向上のための訓練を行います。 ・利用者数 就労移行支援48人	企業等で働くこと（一般就労）を希望する人に対し、一定の期間における生産活動やその他の活動の機会の提供、知識や能力の向上のための訓練を行いました。 ・利用者数 就労移行支援62人	◎	就労アセスメントの実施等により利用者数は計画値を大幅に上回っており、障害者のニーズに対して必要な就労支援を行うことができました。	企業等で働くこと（一般就労）を希望する人に対し、一定の期間における生産活動やその他の活動の機会の提供、知識や能力の向上のための訓練を行います。 ・利用者数 就労移行支援49人
継続	就労アセスメントの実施	障害福祉課	特別支援学校卒業生等が就労系サービスの進路を目指すにあたって、短期アセスメントの実施を促進しました。このアセスメントは、本人の希望を考慮しつつ将来的な就労の可能性も含めた就労面の力を評価するものです。 ・利用者数（児童） 1人	特別支援学校卒業生等が就労系サービスの進路を目指すにあたって、本人の希望を考慮しつつ将来的な就労の可能性も含めた就労面の力を評価するため、短期アセスメントの実施を促進します。 ・利用者数（児童） 13人	特別支援学校卒業生等が就労系サービスの進路を目指すにあたって、短期アセスメントの実施を促進しました。このアセスメントは、本人の希望を考慮しつつ将来的な就労の可能性も含めた就労面の力を評価するものです。 ・利用者数 34人（うち児童15人）	◎	特別支援学校等と連携し、短期アセスメントの実施を促進しました。	特別支援学校卒業生等が就労系サービスの進路を目指すにあたって、本人の希望を考慮しつつ将来的な就労の可能性も含めた就労面の力を評価するため、短期アセスメントの実施を促進します。
継続	ボランティア活動の振興・支援とネットワーク	社会福祉協議会	○ボランティアフェスティバル 対象：ボランティアセンター登録ボランティア・地域サロンボランティア、市民 頻度：年1回 場所：市社会福祉協議会 内容：ボランティア活動者同士の交流と、市民へのボランティア活動の啓発として実施しました。子どもへの福祉啓発として福祉映画の上映、市民や介護・看護・福祉関係者を対象に地域医療福祉講演会を行いました。 参加者：市内の中学・高校の学生、市内外の大学生、社会人の57人に当日ボランティアとして参加していただいた。また飲食・物販・啓発ブースには福祉施設、企業の出店を呼びかけ、18ヶ所の参加がありました。 今年度は、ボランティア連協が主催するボラ連加入グループの交流会を同日に行い、市民に向けてもボランティア活動の啓発を行うことで、ボランティア同士の交流だけでなく、広く市民にボラ連の活動を紹介でき、ボランティアグループに参加された方もありました。 決算額：686千円	○ボランティアフェスティバル 対象：ボランティアセンター登録ボランティア・地域サロンボランティア、市民 頻度：年1回 場所：市社会福祉協議会 内容：ボランティア活動者同士の交流と、市民へのボランティア活動の啓発として実施します。啓発・飲食・物販ブースを設け、福祉施設や企業の出店を呼びかけ、両者のつながりづくりを進めます。ボランティアフェスティバルのボランティア募集については、市社協広報誌「社協くさつ」やホームページ、SNS等で周知啓発し、市内の中学・高校生、市内外の大学生、社会人に広く呼びかけます。（大学生の募集においては、周辺大学の立命館大学や龍谷大学のボランティアセンターにも募集依頼をします。） 予算額：701千円	○ボランティアフェスティバル 対象：ボランティアセンター登録ボランティア・地域サロンボランティア、市民 頻度：年1回 場所：草津市社会福祉協議会 内容：ボランティア活動者の交流と、市民へのボランティア活動の啓発として実施しました。 ボランティア音楽祭や、盲導犬カフェなどのブースを設け、ボランティア活動などの啓発をしました。また飲食・物販ブースでは、福祉施設や学区社協の活動拠点、さらにSO-AIフェスタでつながりをもった企業等が出店し、11か所の参加がありました。 ・ボランティア参加者：100人 市内の中学・高校等や看護専門学校、周辺大学、社会人に対し、ポスターやチラシの送付、「社協くさつ」やホームページでの啓発等を行い、ボランティア募集を行った。特に中学・高校生の参加が多く、他学校同士の出会いや交流の場となりました。 決算額：684千円	◎	当日の参加者は約800人であり、小さな子どもから高齢者まで、幅広い方のご参加がありました。 また、ボランティアには過去最多の100人に当日スタッフとして協力してもらい、特に中学・高校・大学生の若い世代がそのほとんどを占め、若い時からのボランティアの体験をする機会としてもらいました。模擬店では障害者の作業所等にも声をかけ、他の地域の団体との交流の場にもしてもらいました。 さらに、盲導犬カフェを開催し、「盲導犬」という言葉は知っているが、あまり詳しくは知らない人もいる中で、視覚障害者の目となり、命をつなぐ盲導犬について市民が知るきっかけをつくることを目的とし、たくさんの方に盲導犬を知ってもらいました。	対象：ボランティアセンター登録ボランティア・地域サロンボランティア、市民 頻度：年1回 場所：市社会福祉協議会 内容：今年で開催5周年を迎える今年度は、さまざまな人・活動・場所等に“光をあてる”ことをテーマとし、多くの市民の方の目にふれることにより、今後の活動がますます充実したものになるきっかけの場とします。 また、4月に発生した熊本地震災害に対し、草津市としても復興への協力を行うことで、被災された方に少しでも希望の光を見出してもらえるようなイベントとします。 ボランティアフェスティバルのボランティア募集については、市社協広報誌「社協くさつ」やホームページ等で周知啓発し、市内の中学・高校生、市内外の大学生、社会人に広く呼びかけます。 予算額：780千円
			○地域サロン活動者交流会 対象：地域サロンボランティア・地域サロン参加者 頻度：年1回 参加者数：88人 内容：サロン活動中の思いなどを話し合い、他のサロンと横のつながりを持ち課題を共有するワークショップの開催。また、ウェルカム演奏や「脳を若々しく保つには」の講演開催。 決算額：51千円 ボランティアコーディネーターは、ボランティア連絡協議会が主体的に開催されている研修会や交流会をとおして、草津市内のボランティア同士の交流を深め、お互いの悩みを共有し、つながりをつくることでボランティア活動の意義を再確認し、活動の活性化を支援しました。 ボランティアフェスティバルでボランティア連絡協議会の紹介コーナーを設けました。 ボランティア連絡協議会に加入したボランティアグループにはボランティア保険の一部助成を行いました。 ボランティア連絡協議会からの相談に対し、助言を行いました。	○地域サロン活動者交流会 対象：地域サロンボランティア・地域サロン参加者 頻度：年1回 参加者数：100人 内容：サロン活動中の思いなどを話し合い、他のサロンと横のつながりを持ち課題を共有することで、これからの活動につなげていただきます。 予算額：63千円 ボランティアコーディネーターはボランティア連絡協議会が主体的に開催されている研修会や交流会が充実するよう支援します。市社協が主催、参加するイベントにも参加、協力を呼びかけ、ボランティア連絡協議会の紹介、啓発ができる機会を設けます。 ボランティア連絡協議会に加入したボランティアグループにはボランティア保険の一部助成を行います。 ボランティア連絡協議会からの相談に対し、助言を行います。	○地域サロン活動者交流会 対象：地域サロンボランティア・地域サロン参加者 頻度：年1回 参加者数：128人（59サロン） 内容：サロン活動中の思いなどを話し合い、他のサロンと横のつながりを持ち課題を共有しました。また、介護予防に視点をのいた音楽療法士や鍼灸師による講演、ボランティアセンター登録団体の発表などで、最後に雑誌編集者にまとめていただきました。 予算額：96千円 ボランティアコーディネーターは、ボランティア連絡協議会が主体的に開催されている研修会や交流会をとおして、草津市内のボランティア同士の交流を深め、お互いの悩みを共有し、つながりをつくることでボランティア活動の意義を再確認し、活動の活性化を支援しました。 ボランティアフェスティバルでボランティア連絡協議会の紹介・コーナーを設けました。 ボランティア連絡協議会に加入したボランティアグループにはボランティア保険の一部助成を行いました。 ボランティア連絡協議会からの相談に対し、助言を行いました。	◎	日頃の思いや悩みを話し合い、他のサロンとのつながりを持ち課題を共有することで今後の活動に活かす交流会となりました。	ボランティアコーディネーターはボランティア連絡協議会が主体的に開催されている研修会や交流会が充実するよう支援します。市社協が主催、参加するイベントにも参加、協力を呼びかけ、ボランティア連絡協議会の紹介、啓発ができる機会を設けます。 ボランティア連絡協議会に加入したボランティアグループにはボランティア保険の一部助成を行います。 ボランティア連絡協議会からの相談に対し、助言を行います。
継続	ボランティアセンターの活用促進	社会福祉協議会	○福祉体験教室の実施 オムロンデー、小学校・中学校、学区社協行事へ出向き、ボランティア相談受付や社会福祉施設との連携によるボランティア体験、福祉体験などを通して福祉やボランティアの理解を広げるために実施しました。 1企業、3学区社協、13幼・小・中学校、2団体（市子連・学区子ども会）で実施。	○福祉体験教室の実施 オムロンデー、小学校・中学校、学区社協行事へ出向き、ボランティア相談受付や社会福祉施設との連携によるボランティア体験、福祉体験などを通して福祉やボランティアの理解を広げるために実施します。オムロン以外の企業にも積極的にアプローチし、移動ボランティアセンター開設の機会の増加を図ります。	○福祉体験教室の実施 オムロンデー、小学校・中学校、学区社協行事へ出向き、ボランティア相談受付や社会福祉施設との連携によるボランティア体験、福祉体験などを通して福祉やボランティアの理解を広げるために実施しました。 1企業、1学区社協、11小・中学校、3団体で実施。	◎	オムロンデーへの協力、市子連等への福祉体験教室（手話・点字・車椅子体験）の実施により、ボランティアへの理解をひろげることができました。	○福祉体験教室の実施 企業、小学校・中学校、学区社協行事へ出向き、ボランティア相談受付や社会福祉施設との連携によるボランティア体験、福祉体験などを通して福祉やボランティアの理解を広げるために実施します。